

## JRC 2016 報告 国際医用画像総合展 (ITEM)

小樽掖済会病院 平野雄士

例年と同様にたくさんの人の波をかき分けて、機器展示を見て回りました。本年は出展社数 158 社、入場者数は 2 万 864 人と報告されています。ちなみに過去の入場者数を調べてみると平成 24 年は 2 万 1782 名、平成 25 年は 2 万 1559 名、平成 26 年は 2 万 2140 名、平成 27 年は 2 万 2257 名です。今年は少し減りました。

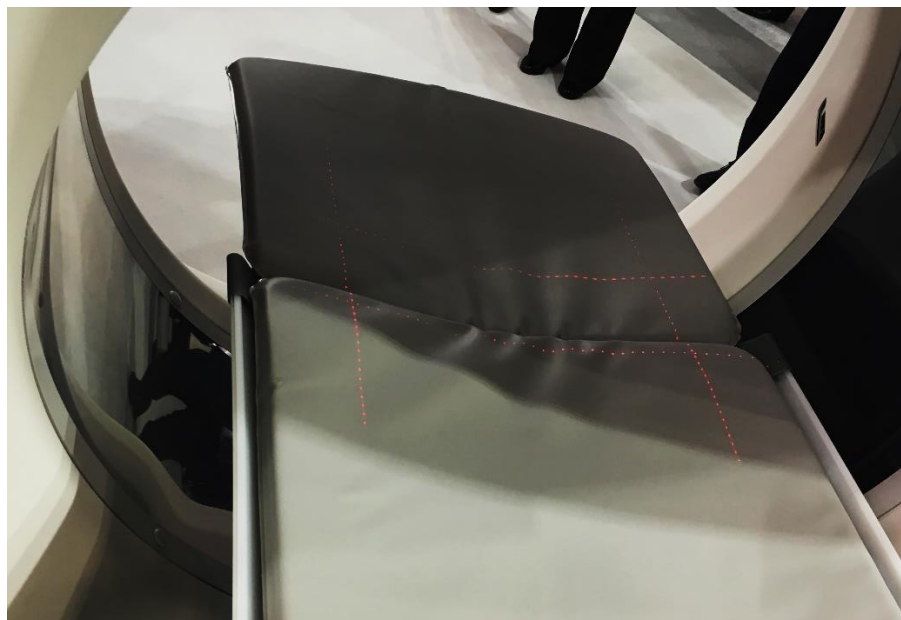
そのためかいつもの年よりも酸欠な感じが幾分和らいでいます。

当院では昨年 12 月の新築移転の際に新機種を導入していたので、CT や MR 以外の整備仕切れていない機器にばかり目がいきりましたが、北海道 CT 遠友 ser 会なので、なるべく CT に絞って報告します。

東芝ブースは今回の買収劇による会社事情も合わさり、世界各国からのお客さんと説明員が溢れていました。ほかのブースに比べ外国人比率が圧倒的に多かった様子です。目玉となっていたのは Aquilion ONE/GENESIS Edition。



従来の 64 列 CT よりもコンパクトになり、機械室も不要ということで、導入面での悩みを一気に解決しています。FIRST との組み合わせで高い能力を発揮し、近々、CT の標準機となりそうですね。照射野が出るのが売りのようです。



AquilionONE GENESIS Area Finder (Volume スキャンの照射野表示が可能)  
超高精細 CT はまだ開発途中だそうです、発売はいつになるのか？  
そちらも期待の一品です。

他のブースも見て回りましたが、さて、目新しいものは、、、あつた、PHILIPS「2層検出器 CT」(IQon スペクトラル CT)。

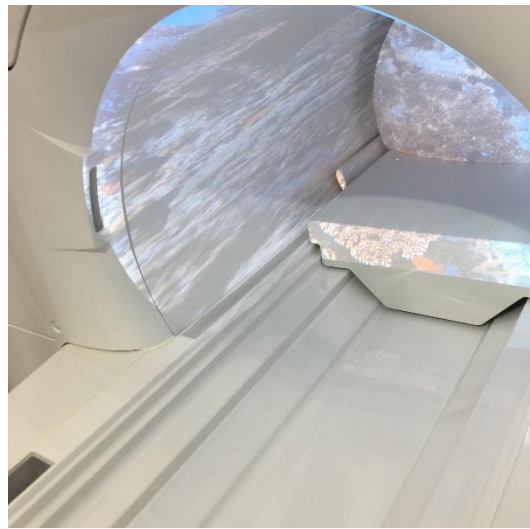
GE は昨年と変化はありませんでした。シーメンスは Dual Source CT「SOMATOM Drive」の展示がありました。

また、CT ではありませんが、東芝ブースでワークステーションの Vitrea が展示されていました。その中で FFR-CT 計測が可能な機能を紹介しており、形態から流体解析へ一歩進んだ臨床応用が期待されます。

他には東芝の MRI がプロジェクションマッピング(MR Theater)を採用し、静音化と共に患者に優しいアプローチが展示されていました。



ワークステーション Vitrea CT-FFR



MRI 内部の MR Theater

さて、CANON と一緒になった東芝 CT は何処へ向かうのやら、  
医師、技師と共に築いた今までの世界トップの性能を、今後もその  
延長線上で培っていただけることを期待したいと思います。